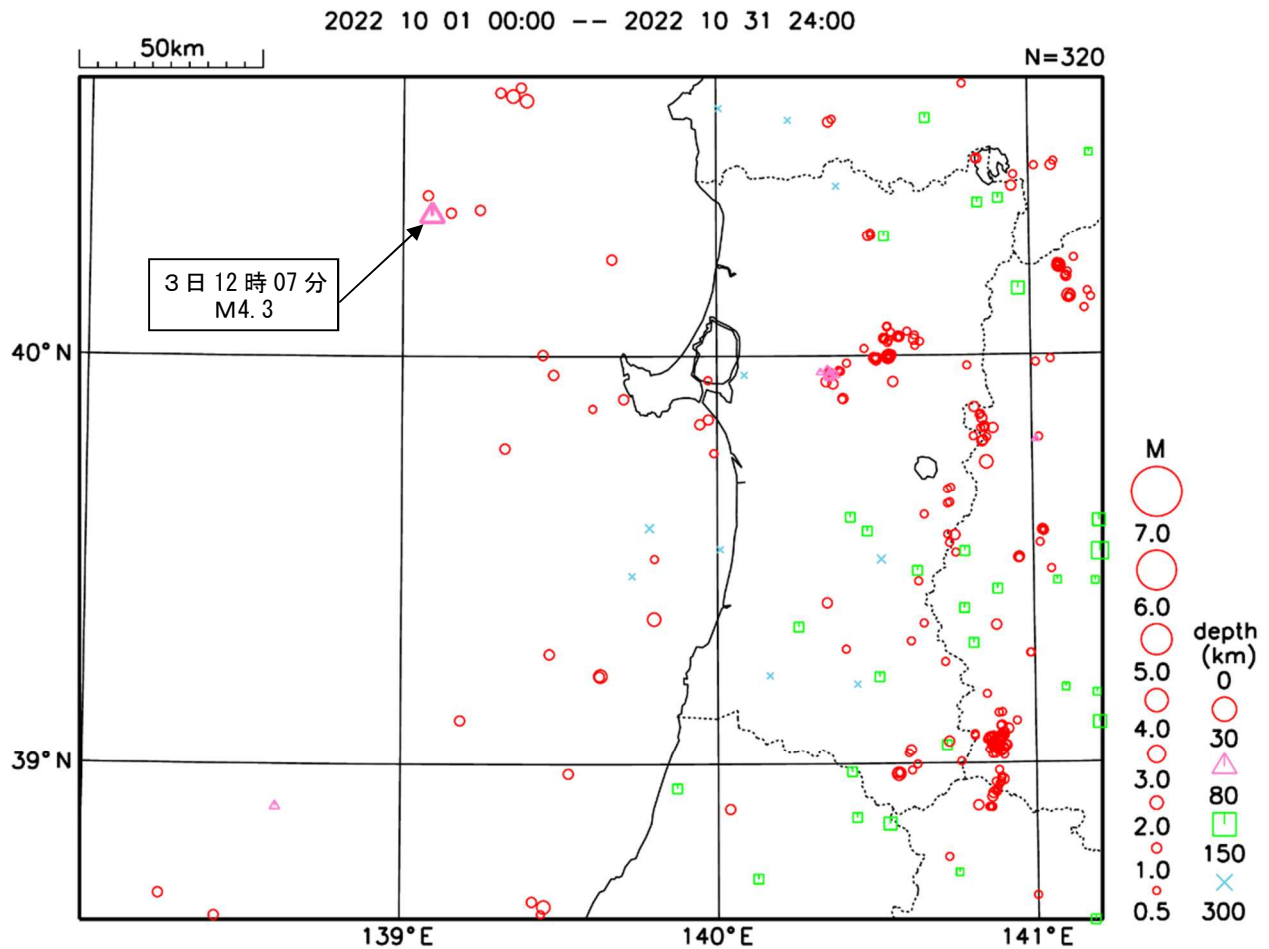


秋田県月間地震概況

秋田地方気象台

2022年10月

【震央分布図】



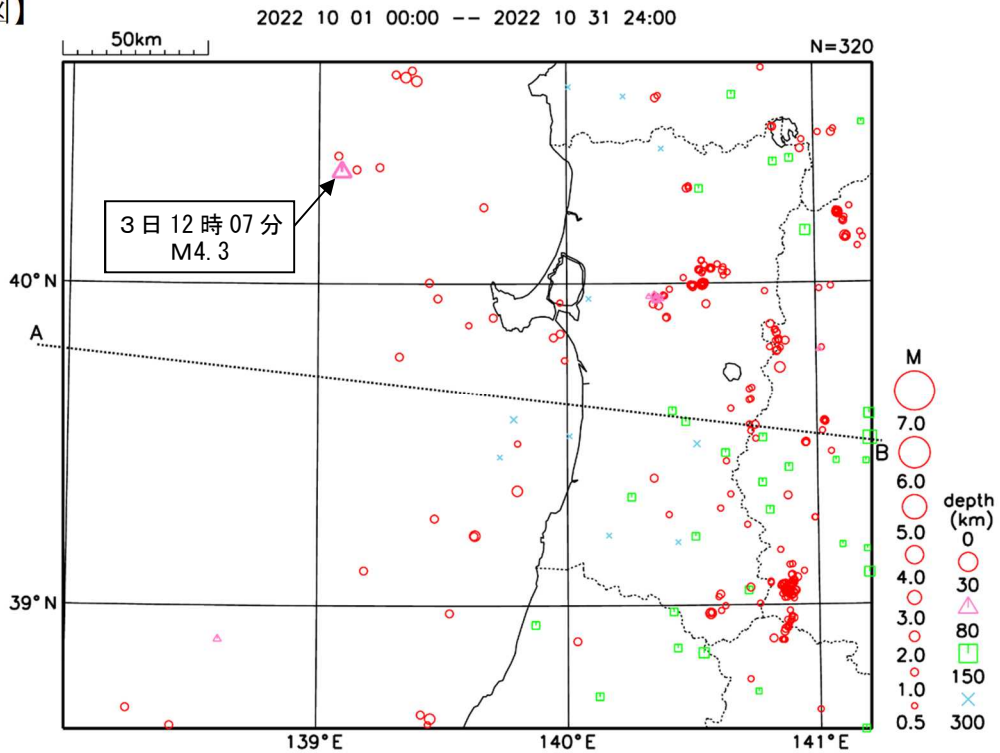
〈10月の地震概況〉

県内で震度1以上を観測した地震は3回（9月：4回）で、そのうち図の範囲内を震源とする地震が1回、図の範囲外を震源とする地震は2回であった。

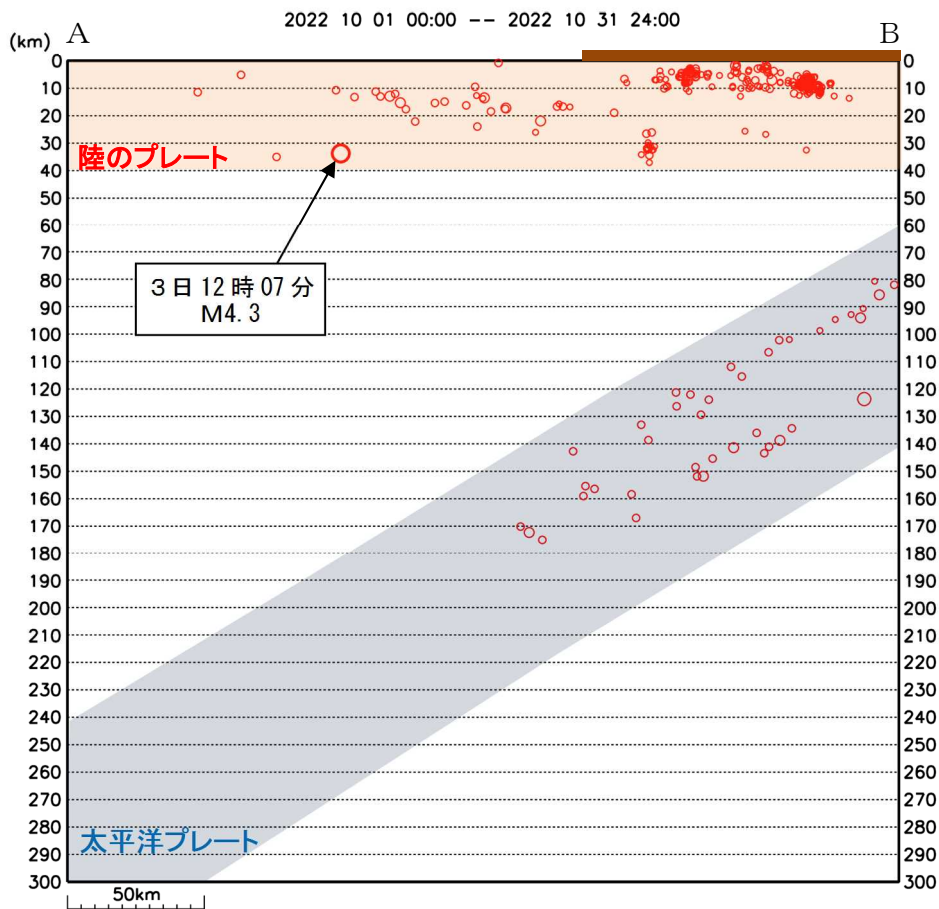
3日12時07分に秋田県沖でM4.3の地震が発生し、青森県と秋田県で震度2～1を観測した。県内では、能代市、男鹿市、秋田市などで震度1を観測した。この地震は地殻内で発生した。この地震の震源付近では、「昭和58年（1983年）日本海中部地震」が発生している。

6日04時04分に宮城県沖の深さ57kmでM4.5の地震が発生し、岩手県と宮城県で震度3を観測したほか、東北地方で震度2～1を観測した。県内では、湯沢市、大仙市、仙北市などで震度1を観測した。この地震は太平洋プレート内部で発生した。

【震央分布図】



【断面図】 (震央分布図内の直線A-Bを断面として投影した震源の深さの分布)



- ※ 太平洋プレート及び陸のプレートの位置は、地震発生状況を考慮して描いた大まかなものである。
- ※ —— は陸地の大まかな位置を示している。
- ※ 陸地から離れた海域ほど、震源の深さ精度は良くない。
 なお、海域地殻内の地震の震源（日本海の浅い地震など）は、実際にはより浅いものが多いと考えられる。

秋田県で震度 1 以上を観測した地震の表

※今後の精査により、震源や震度のデータが追加されることがある。

期間 2022年10月1日～2022年10月31日

発震時	震央地名	北緯	東経	深さ	規模
各地の震度					
2022年10月03日12時07分	秋田県沖	40° 20.7' N	139° 05.5' E	34km	M4.3
秋田県	震度 1 : 能代市緑町 能代市常盤山谷 能代市追分町* 男鹿市男鹿中 男鹿市船川* 男鹿市角間崎* 井川町北川尻* 三種町鶴川* 三種町森岳* 八峰町八森木戸の沢* 秋田市八橋運動公園* 北秋田市新田目*				
2022年10月06日04時04分	宮城県沖	38° 42.5' N	141° 58.5' E	57km	M4.5
秋田県	震度 1 : 横手市雄物川町今宿 横手市大雄* 横手市平鹿町浅舞* 湯沢市沖鶴 東成瀬村椿川* 大仙市刈和野* 大仙市北長野* 大仙市太田町太田* 大仙市大曲花園町* 大仙市高梨* 仙北市西木町上桧木内* 仙北市田沢湖生保内上清水* 仙北市角館町小勝田*				
2022年10月19日14時54分	三陸沖	39° 36.6' N	143° 32.2' E	12km	M5.3
秋田県	震度 1 : 大仙市高梨*				

(注) 地震の震源要素等は暫定値であり、再調査により変更することがある。

各地の震度は秋田県のみを示し、*は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の観測点である。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。

冬季の地震災害への備え

冬季に地震が起きると、雪や寒さの影響により被害が拡大するおそれがあります。冬季に地震が発生した場合を考え、地震災害への備えを確認しておきましょう。

●避難への備え

積雪の多い地域では、屋根には多くの雪が積もっているため、地震の揺れによっては家屋が倒壊したり、落雪や家屋の歪みで屋内に閉じ込められたりすることがあります。日常的に屋根の雪下ろしや除雪をすると共に、扉や窓をこじ開ける道具を用意しておきましょう。

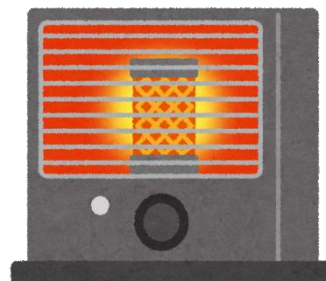
地震が起きた際に、傾斜地等ではなだれが発生し、道路が通行できなくなる場合がありますので、日頃から複数の避難経路を確認しましょう。避難する際には電気のブレーカーやガスの元栓を止める等、火災が起きないようにしましょう。大雪や吹雪等の悪天時には、無理に避難をせず、天気が回復のを待つことも大切です。

なだれで道路がふさがれている場合や悪天時は、救助や支援に時間がかかる場合があります。救助を待つ間の生活に必要な、一週間以上の備蓄食料を用意しておきましょう。



●火災への備え

冬は、ストーブ等の暖房器具を使用しているため、地震の起きた際に火災が発生するリスクが高くなります。暖房器具には、揺れを検知して自動消火する装置がついていますが、余熱等で火災になる場合もあります。暖房器具の近くに燃えやすい物がないか確認することが大切です。また、機器の破損や、灯油、ガスの漏れ等がないか確認しておきましょう。



●寒さへの備え

地震によって、電気やガス等のライフラインが止まると、普段使用している暖房器具等が使えなくなることが考えられます。防寒着や使い捨てカイロを用意する等、防寒対策をしておくことが大切です。また、室内で実際に火を起こしたり、車の暖房を利用したりする場合は、こまめに換気する等して、一酸化炭素中毒に注意してください。

●さいごに

地震はいつ起きてもおかしくありません。冬季に限らず、大きな揺れを感じた時にその場の状況に応じた身を守る行動ができるようにしておきましょう。また、上記の備えは大雨など他の大規模な災害に対しても有効です。自らの命を守るためにも、普段からの備えと心構えをしておきましょう。